

<ハリガネムシの謎>

桑原 紀子

子どもの頃、男の子たちが、カマキリのお尻から黒いゴム紐のような虫を出して遊んでいるのを、こわごわ覗いた思い出があります。

大人になってハリガネムシに出会ったのは、丹沢に川遊びに行った時でした。1匹のバッタが水辺に来てじっとしているので、不思議に思っていたら、バッタのお尻から、黒いハリガネムシが出てきて水中に逃げ出し、バッタは死んでしまったのです。

その場にいた私も友人もびっくりして、頭の中は疑問符でいっぱいでした。その疑問は、川に潜っていた息子の言葉で解けました。小さな滝つぼに潜っていたら、ハリガネムシが繁殖のために沢山集まっていたというのです。とすると、体内に寄生されたバッタは、ハリガネムシの繁殖行動のために、水辺にやってきた事になります。



ハリガネムシは水中で産卵し、その卵を水生昆虫が食べ、水生昆虫を捕食するカマキリや雑食性のバッタが次の宿主になり、秋、成長したハリガネムシは繁殖行動のために、宿主を水辺に向かわせます。

9月も終り頃、近くの住宅地の道路に、カマキリの轢死体が目立ちます。その傍には、干からびたハリガネムシが転がっています。林や畑地から出てきたカマキリは、道路の真ん中でボーと立ちすくんでいます。まるで轢かれるのを待っているかのようです。もしハリガネムシがカマキリ

を水辺に向かわせているのだとしたら、彼らの遺伝子には、道路や車の情報はまだなくて、林から下って、まっすぐな平らな舗装道路を川と認識しているのかもしれない。

車に轢かれて脱出するのは、彼らには誤算なのでしょうか？

少し怖いけど不思議な生き方をするハリガネムシの謎は、まだ解けません。